



5 月 号  
平成 30 年 5 月 23 日

# 桜花爛漫

郷土を舞台に 夢に向かい ともに歩む学校

心豊かで  
たくましい荘川っ子

- ・ 考る子
- ・ 思いやりのある子
- ・ 元気な子

## 地域と ともにある 学校

校 長 水 口 悟

### 蚕起きて桑を食う (かいこ おきて くわをくう 小満 初候)

蚕が、桑の葉をいっぱい食べて育つころ。美しい絹糸となる繭を、小さな体で紡ぐのです。(新暦では、およそ五月二十一日～五月二十五日ごろ 日本七十二候を楽しむより)

### ◇地域の一員として活動する喜び

「新島研修で、長栄寺境内にて獅子舞を披露した後、拍手が鳴り止みませんでした。地域の一員として認められたようで、嬉しかったです。」卒業した昨年度の6年生の言葉です。

14日の6時間目に児童集会がありました。朝の全校放送では、「今日は児童集会があります。1～3年生の皆さんは、目を見てしっかり聞きましょう！また、4～6年生の皆さんは伝わるように話しましょう！」と、アナウンスされました。午後2時30分、チャイム以前に全校が集まり、チャイムと同時に司会者が挨拶をしました。アナウンスを聞いたり時間通りに児童集会が始まる姿を見たりしたとき、「すごい子どもたち！」と嬉しくなりました。自分たちの手で、自分たちの学校をよくしよう！とする意欲的な姿です。前期の半年間に取り組みもうとしている各委員会のアイディアは、とっても頼もしい内容です。みなさんが一生懸命に取り組みもうとする姿に、先生方全員、鳴り止まない拍手を送り続けます。

16日には、地域一斉の環境整備作業がありました。荘川の地域では、毎年あたりまえに行われている事なのですが、保護者・地域の方々・学校職員・児童生徒が協働し、自分たちのまちを地域みんなで美しくしようと取り組み続けていることは素晴らしいことです。他の校長先生方に話すと、みんなびっくりです。

また、18日には、J-パワーの方々や地域の方々とともに「荘川桜」の茅敷きを行いました。荘川の未来を担う子どもたちによって、荘川桜の命をつなぐ活動ができたことはとても尊いことだと地域の方が話されました。いつもは入ることのできない柵の中に入り太い幹に手を当てた児童が「あったかい！」と叫ぶので、私も桜の幹に手を当ててみると、やはりほんのりあたたかさを感じました。



### ◇地域の一員として、子どもを語る会

22日の午後から、小学校を会場に「保小中学校運営協議会」が開催されました。約20名の評議員の方々が参加され、スピーチ集会を参観し、子どもたちのことや将来の学校のことについて意見を交流しました。荘川の子どもの姿を通して、いろいろな方々と幾度も対話する活動はとても重要です。

本日は、ありがとうございました。スピーチ集会の発表は、どの子も大きな声で上手に発表し、すばらしかったです。5年生のひよりさんは、積極的に人との交流を行いたいこと、お兄さんの姿を見て自分もと・・・、家族のすばらしさを感じました。また、自分から進んで行えば他の子も・・・という発表もあり、その心遣いなどすばらしいと思いました。最後に、発表の一人一人の子に対して、先生が感想を言われ誉められたことも、とてもよかったです。子どもたちは、更に自信がついたことと思います。地域に、子どもの声が聞こえるということはとても大事。学校は絶対に無くすことはできないと思います。地域の活性化につながります。(参加者の感想から)